

## 令和 7 年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（総合的目標）（令和7年12月末日時点）

## 1 判定

指標	過去実績		R7年度自己点検				目標値			備考	
	(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10		
中央博物館の年間利用者数	入館者数（本館）	96,381人	98,169人	109,000人	82,485人	76%		121,000人	133,000人	146,000人	
	入館者数（海博）	60,118人	78,630人	61,000人	67,178人	110%		61,000人	61,000人	61,000人	
	ウェブアクセス数（本館）	203,613件 (R3~R5平均)	185,881件	212,000件	153,254件	72%		221,000件	230,000件	240,000件	
	ウェブアクセス数（海博）	55,463件 (R3~R5平均)	57,050件	59,250件	31,468件	53%		61,450件	63,650件	66,000件	

## 2 自己点検

・本館の入館者数及びウェブアクセス数は目標値に対しておおむね良好といえる。3月14日からの企画展「生薬」は人気コンテンツである「薬屋のひとりごと」とのコラボもあり多くの来館者が望める。

・海博の入館者数はすでに目標を達成している。ウェブアクセス数については目標値の達成は下回る見込み。ウェブアクセス数が例年よりも減少していることについての検証が必要。

## 3. 有識者による評価

## 4. 今後の活動方針

令和7年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業1）（令和7年12月末日時点）

重点事業 第1節 千葉の海の魅力を探り、国内外に発信

1. 事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京湾の変遷について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信</li> <li>○千葉県における海藻利用について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信</li> <li>○房総海岸部における動植物の調査研究と成果の発信</li> <li>○千葉の海の幸を自然誌の視点で紹介する展示の開催</li> <li>○深海生物についての調査研究と成果の発信</li> <li>○分館海の博物館における海の自然に関する調査研究と成果の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点研究「東京湾の変遷を探る」の研究及び資料収集、小冊子刊行</li> <li>・国立歴史民俗博物館と共同研究「千葉の海藻文化と東アジア（仮）」の研究及び資料収集</li> <li>・重点研究「房総海岸部における動植物」の予備調査、計画立案、準備</li> <li>・深海生物に関する研究及び資料収集</li> <li>・特別展「房総うみの幸大百科」開催</li> <li>・海の自然に関する調査研究と成果の発信</li> <li>・マリンサイエンスギャラリーの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点研究「東京湾の変遷を探る」に関する研究会を2回開催</li> <li>・国立歴史民俗博物館と共同研究「千葉の海藻文化と東アジア（仮）」に関する研究会を3回、調査を2回実施</li> <li>・重点研究「房総海岸部における動植物」の来年度の調査研究に向け、メンバーを調整</li> <li>・房総海岸部で化石・岩石資料等を収集</li> <li>・深海生物に関する原著論文4件、中央博だよりに1件公表</li> <li>・千葉の海の幸を自然誌の視点で紹介する特別展「房総海の幸大百科－千葉の豊かな海と食文化－」を開催（7月12日～9月23日）入館者数20,244人</li> <li>・分館海の博物館において、常設展示部分更新及びマリンサイエンスギャラリー用の資料収集を実施</li> <li>・分館海の博物館において、県外資料収集（島根県）、県内資料収集（房総沿岸各地）を実施</li> <li>・マリンサイエンスギャラリー「うみ鳥つぶ2」を開催（12月13日から）12月末までの入館者数1,833人</li> </ul>
②千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>○房総の海辺の生物や地形等の観察会の開催</li> <li>○房総の海辺の文化等の見学会の開催</li> <li>○勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・房総の海辺の生物や地形等の観察会の開催</li> <li>・房総の海辺の文化等の見学会の開催</li> <li>・勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・房総の海辺や地形に関する観察会を4回実施（本館）</li> <li>・地元漁業者からの資料収集を実施（分館海の博物館）</li> <li>・分館海の博物館において観察会を5回、磯・いそ探検隊9回、野外実習事業19回、団体フィールドトリップ16回実施</li> </ul>

2. 評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信	展覧会で「千葉の海の魅力の理解が増した」と回答した参加者の割合	(新規)	(新規)	50%	96%	191%			60%	70%	80%以上	特別展アンケート結果
千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催	千葉の海に関する講座・観察会、見学会の参加者数	346人	387人	360人	702人	195%			375人	385人	400人	講座・観察会・体験イベント

3 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉の海の魅力を探る調査研究について、研究会、調査を着実に進めている。</li> <li>・年度内に東京湾に関する小冊子刊行に向け、現在準備中。</li> <li>・展覧会で「千葉の海の魅力の理解が増した」と回答した参加者数は目標値を大きく超えた。房総の海の幸に焦点を当て、郷土料理から生物を紹介するアプローチがこの結果につながった。</li> <li>・千葉の海に関する講座、観察会、見学会も着実に実施している。特別展「房総うみの幸 大百科」関連イベントも多く、現時点で目標値を大きく上回っている。</li> </ul>
---

4. 有識者による評価

--

5. 今後の活動方針

--

令和7年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業2）（令和7年12月末日時点）

重点事業 第2節 世界とのつながりを意識した活動

1. 事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①生物多様性等に関する研究の推進と発信	○県内各地（下総台地、房総海岸部、里山等）における動植物の調査研究と成果の発信 ○生態園における環境や動植物の生息状況等の継続的な調査研究と成果の発信	・重点研究「下総台地西部の自然」に関する調査研究及び資料収集 ・重点研究「房総海岸部における動植物」の予備調査、計画立案、準備【再掲】 ・「生態園」に関する展示やトピックス展の実施	・重点研究「下総台地西部の自然」について、印西市域の植物相の調査を実施した。今期は印西市の142区画の中20区画を調査した。これにより全体の70%にあたる100区画の調査が終了。 ・春の展示「房総のミニチュア「生態園」～日本初エコロジー・パークの35年～」(2月22日～6月8日)を開催(令和7年度入館者数11,216人) ・生態園トピックス展「生態園からはじめる房総の自然観察」(2月1日から6月29日)を開催(令和7年度入館者数10,819人) ・デジタルミュージアム「生態園の自然」において464件の生物に関する情報を発信 ・市民研究員との共同研究の成果として学会発表2件、論文1件 ・閉館日以外は、生態園内の動植物のモニタリングを実施した
②世界の博物館等との連携・交流	○海外の博物館等との住民参加型の博物館活動を通じた交流事業の実施 ○海外の機関との研究等による交流	・海外博物館との連携にむけた準備、計画立案、研究等による交流	・イタリア・モンタルバーノ博物館の市民向けイベントでのプレゼンテーション(チパニアンGSSP関連)を実施 ・ベルリン自然史博物館(ドイツ)、国立自然史博物館(フランス)で資料調査を実施 ・韓国木浦大学と海苔養殖についての研究会を実施
③ウェブサイト、展示等の多言語化	○博物館利用案内や展示案内などのウェブサイトの表現の平易化、英訳併記など ○デジタルミュージアムなどウェブコンテンツの表現の平易化、英訳併記など ○常設展示の解説パネル等の表現の平易化、英訳併記など ○展覧会の解説パネル等の表現の平易化、英訳併記など	・表現の平易化、多言語化に向けた事例調査 ・特別展の解説パネル当の表現の平易化、英訳併記など	・低年齢層への常設展示の見学補助プログラム「中央博調査隊」を実施(8回、参加者数177名)。シートの内容更新・開発も検討中。 ・音声ガイドと同時に実施するテキスト英訳の仕様を検討 ・他館の調査を実施(63館) ・特別展において子供も楽しめるパネルおよび各大項について英語の解説ページを作成し、展示室内のQRコードで検索できるようにした
④千葉県と世界のかかわりについての研究	○海外の学問やお茶、海藻など千葉県と世界の意外なかかわりについての調査研究と成果の発信	・「千葉の海藻文化と東アジア」に関する研究・資料収集【再掲】 ・海外から入ってきた学問「ちばの蘭学」に関する予備調査、計画立案 ・「千葉のお茶」に関する調査・研究及び資料収集	・海藻に関する研究会3回、調査2回を実施した ・千葉の蘭学に関して、県内調査1回、令和8年度からの共同研究に向けて打合せを実施した ・千葉のお茶に関する調査を2回実施した

2. 評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※(R7年度)				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
生物多様性等に関する研究の推進と発信	展覧会で「生物多様性の理解が深まった」と感じた参加者の割合	(新規)	(新規)	50%	-	-			60%	70%	80%以上	水辺の昆虫展でアンケート実施し現在集計中
世界の博物館等との連携・交流	展覧会で「千葉県と世界のかかわりへの理解が深まった」と感じた参加者の割合	(新規)	(新規)	50%	-	-			60%	70%	80%以上	生薬展でアンケート実施予定
千葉県と世界のかかわりについての研究	海外博物館等との共同研究の数(累積)	0件	0件	1件	1件	100%			1件	1件	2件	韓国木浦大学

3 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性等に関する研究の推進・発信については、重点研究及び生態園の展示・研究報告等着実に実施している</li> <li>・世界の博物館等との連携・交流については、講演会、研究会、資料調査等着実に実施している</li> <li>・ウェブサイト・展示等の多言語化については、現在常設展の音声ガイドの見直し、英語化に取り組んでいる</li> <li>・千葉県と世界のかかわりについての研究については、研究会、調査を着実に実施している</li> </ul>
---

4. 有識者による評価

--

5. 今後の活動方針

--

令和7年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業3）（令和7年12月末日時点）

重点事業 第3節 他機関との連携強化

1. 事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①様々な主体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○君津市立清和小学校等の県内各地の様々な主体と連携したフィールド・ミュージアム事業（観察会や見学会）の実施</li> <li>○県内各地の自然や歴史、文化の地域資源情報を盛り込んだ観察ガイドマップの作成</li> <li>○市町村や団体等が県内各地で実施する観察会などの野外における博物館活動等の情報集約・公開</li> <li>○様々な主体による観光イベントや広報媒体との連携による千葉の「おもしろい」の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドミュージアム事業の実施（重点地区：北総）</li> <li>・観察ガイドマップの作成（重点地区：上総臨海）</li> <li>・関係団体との調整、サイト準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室博物館18日、観察会3回、出前授業3回実施した</li> <li>・清和地区文化祭に参加</li> <li>・フィールド・ミュージアム広報誌「しいむじな」89号、90号、91号を刊行</li> <li>・「自然と文化 案内帖」の3号、4号を編集</li> </ul>
②青葉の森公園周辺施設との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青葉の森公園内で実施されるイベント等への参画</li> <li>○周辺施設と連携した展覧会や公園で1日すごせるプログラムの実施</li> <li>○展覧会やレファレンスサービス等における県立中央図書館との連携の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント等への参加</li> <li>・公園で一日過ごせるプログラムの内容検討</li> <li>・「海の幸」等をテーマにした中央図書館との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あおばmini★miniまつり2025」に出展（参加者数210人）</li> <li>・「あおばまつり2025秋」に出展（参加者数406人）</li> <li>・あおば祭りへの出展をつうじて公園管理センターとの関係構築</li> <li>・青葉の森文化ホールでの巡回展示の実施</li> <li>・特別展開連イベントとして中央図書館と連携し、講演会（参加者数112人）、絵本読み聞かせ（参加者数17人）を実施</li> </ul>
③博物館や研究機関等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国立歴史民俗博物館との共同研究や展示、講座、広報活動の実施</li> <li>○東京大学千葉演習林との共同研究や講座・観察会等の共催</li> <li>○千葉の自然と歴史、文化等に関する市町村立博物館職員等との共同研究等の実施</li> <li>○当館主催の共同研究に参画する研究員制度の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立歴史民俗博物館と共同研究「千葉の海藻文化と東アジア（仮）」の研究及び資料収集【再掲】</li> <li>・国立歴史民俗博物館との広報活動連携</li> <li>・東京大学千葉演習林との共同研究の実施、講座、観察会の共同開催</li> <li>・重点研究「東京湾の変遷を探る」の研究及び資料収集、小冊子刊行【再掲】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立歴史民俗博物館との共同研究「千葉の海藻文化と東アジア」に関して、研究会3回、調査2回を実施</li> <li>・国立歴史民俗博物館主催の共同研究に参画し、学術書1冊発行</li> <li>・国立歴史民俗博物館との広報活動連携としてスタンプラリーを開催（8月1日～9月28日）（参加者数4,686人）</li> <li>・東京大学千葉演習林との連携事業として観察会2件（参加者数34人）を実施</li> <li>・東京大学千葉演習林において、共同研究3件の調査を実施</li> <li>・改正市民研究員制度で対応、新規登録申請を随時受付</li> </ul>

2. 評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
様々な主体との連携	様々な主体との連携数	7件	7件	8件	6件	75%			9件	10件	11件	県民の森観察会2件と清和小授業3件、公民館文化祭1件
青葉の森公園周辺施設との連携強化	青葉の森周辺施設と共同で実施した事業数	0件	0件	1件	5件	500%			1件	2件	3件	あおばまつり2件、青葉の森芸術文化ホール巡回展示1件、中央図書館との連携2件
博物館や研究機関等との連携強化	他の博物館や研究機関等と共同で実施した事業への参加者数	0人	123人	250人	4,720人	1888%			500人	750人	1,000人	国立歴史民俗博物館とのスタンプラリー、東京大学千葉演習林との連携事業

3 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な主体との連携については、フィールドミュージアムの観察会、観察マップの作成等着実に実施している</li> <li>・青葉の森公園周辺施設との連携強化については、あおばまつりへの出展、芸術文化ホールでの巡回展示、中央図書館との連携イベントを実施し、連携強化が図れている</li> <li>・博物館や連携機関等との連携強化については、国立歴史民俗博物館との共同研究・広報活動連携、東京大学千葉演習林における共同研究を着実に実施している</li> </ul>
--

4. 有識者による評価

--

5. 今後の活動方針

--

令和7年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業4）（令和7年12月末日時点）

重点事業 第4節 デジタル技術の活用

1. 事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高精細画像や3D画像などの取得による博物館資料情報のデジタル化と公開</li> <li>○デジタルミュージアム等におけるウェブコンテンツの充実</li> <li>○ウェブサイトのリニューアルや収蔵資料データベースの拡充等、システム環境の整備</li> <li>○デジタルデータ公開に係るポリシーの見直し（R7年度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化（高精細画像化、3D画像化、写真フィルムのスキャン等）、公開</li> <li>・デジタルミュージアムの充実（地学関連）</li> <li>・システム環境の検討</li> <li>・データ公開ポリシーの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料データベースで411件新規に画像公開</li> <li>・地学展示室の3Dデータを作成</li> <li>・3D化に関する自然誌シンポジウム開催（参加者数対面17人オンライン60人）</li> <li>・デジタルミュージアム「チバニアン期の化石」を準備中</li> <li>・デジタルデータ公開方針（原案）を作成</li> </ul>
②外部システムとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際的なネットワークとの連携（地球規模生物多様性情報機構（GBIF）、国際塩基配列データベース（INSD））</li> <li>○国内のプラットフォームとの連携構築（ジャパンサーチ、文化遺産オンライン、J-STAGE）</li> <li>○研究者間の交流促進（researchmapとの連携・拡充）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GBIF、INSDへの情報提供・連携継続</li> <li>・ジャパンサーチ、J-STAGEとの連携検討</li> <li>・researchmapとの連携拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GBIFへ13,000点情報提供</li> <li>・DNA配列をINSDへ109点登録</li> <li>・ジャパンサーチとの連携に向けて、先方とZOOMによる会議を実施 ←現在の当館のシステムスペックでは連携できる数は限定的</li> <li>・研究系職員のresearchmapへの登録・各自更新</li> </ul>
③オンラインによる行事の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オンラインによる自然と歴史、文化に関する講座や講演会等の実施</li> <li>○オンラインによる海外の機関とのシンポジウム等の共同開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座、観察会等のオンライン配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン講座を1日（2回）開催（参加者数14人）</li> <li>・自然誌シンポジウムをオンラインで開催（オンライン参加者数60人）</li> </ul>
④展示等におけるデジタル技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高精細画像や3D画像などのデジタル化した博物館資料情報を展示等に活用</li> <li>○SNS等を活用した研究成果等の迅速な発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dデータをもとに製作した白亜紀シロアリコプロライト模型を常設展示で公開及び「X」への投稿を実施</li> <li>・関連学会へ参加・発表5件、論文1件公表</li> </ul>

2. 評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実	デジタルミュージアム各コンテンツへのアクセス件数	25,647件	確認中	3,750件	確認中				45,000件	52,500件	60,000件	デジタルミュージアム各コンテンツの合計アクセス件数 目標値に設定していたものはデジタルミュージアムのトップページの値であったため修正。
展示等におけるデジタル技術の活用	SNS等による研究成果の発信数	16件	10件	19件	5件	26%			22件	26件	31件	論文発表プレスリリースに関するSNS発信数

3 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組①に関しては、資料データベースでの画像公開、3Dデータに関するシンポジウム、デジタルデータ公開ポリシー改定案の策定等、着実に実施している</li> <li>・取組②に関しては、GBIFやINSDへの情報提供が着実に進んでいる。一方でジャパンサーチとの連携については今後も検討していく必要がある</li> <li>・取組③に関しては、オンラインによる講座・シンポジウムを着実に実施している。引き続きオンラインの活用を図る</li> <li>・取組④に関しては、3Dデータをもとに作成した模型を常設展示に活用するとともに、SNSで情報を公開する等、着実に実施している</li> <li>・博物館情報システムの更新によりデジタルミュージアムのアクセス件数が、トップページの集計から各コンテンツへのアクセス件数に変更となったため、目標値を修正</li> <li>・現状SNS等による研究成果の発信数については、目標値を大きく下回っている。今後より積極的な発信に力を入れ目標達成を図る</li> </ul>
--

4. 有識者による評価

--

5. 今後の活動方針

--

令和7年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業5）（令和7年12月末日時点）

重点事業 第5節 資料を未来に引き継ぐ

1. 事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管	○収集資料の標本化・整理・修復作業の推進 ○収集資料データベースへの登録の推進 ○大利根分館、大多喜城分館の資料集約・保管	・継続的な標本化、整理、修復作業等 ・継続的な資料データベース登録 ・大利根分館での資料保管・活用 ・大多喜城分館の資料確認、移動	・本年度資料登録件数7,141件 ・本年度資料データベース登録件数6,850件 ・大利根分館から県指定・国登録の資料を本館に移動
②資料管理体制の強化	○総合的有害生物管理の手法や定期的な温湿度モニタリング等による収蔵資料の管理体制強化 ○資料保存に関する外部研修会等への参加による職員のスキルアップ	・IPM手法や温湿度のモニタリング等による収蔵庫管理 ・職員の外部研修等への参加（年2人）	・岩石資料のアルコール洗浄を実施 ・年4回のトラップ調査のうち、3回まで終了 ・国立民族学博物館でIPMについて調査実施
③資料救済ネットワーク拠点機能の強化	○「博物館資料救済システム」のセンター館として災害発生時の情報集約、平時の情報伝達訓練や研修等を実施 ○県内各地の博物館や地域に所在する資料情報の集約 ○自然史系標本セーフティネット、歴史資料ネットワークなどと連携した全国規模の資料救済 ○地域継承が困難な資料に関する相談受付 ○寄託・寄贈資料の積極的な受入れ	・県内各地の資料情報の集約（重点地区：ベイエリア） ・自然史系標本セーフティネット等との連携検討 ・地域継承が困難な資料に関する相談体制の検討・構築	・北総資料ネットとの連携を実施 ・学校に残されている資料の調査方法について検討、統合が予定される小学校2校に保存されている資料の調査を実施 ・化石コレクションの寄贈受入れ準備中 ・県立高校全校を対象として、学校に保管されている自然史標本のアンケートを実施 ・木更津高校所蔵の自然史標本の実態調査を実施 ・大網白里町の神社において、絵馬の保存方法などについてアドバイスを行った ・展示施設を改修中の香取神宮から県指定文化財の寄託を受けた ・郷土玩具のコレクションの調査を実施

2. 評価指標の判定

県内外の資料ネットワークとの連携数

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管	資料データベースへの登録点数（累積）	504,902点	510,434件	525,000件	517,983件	99%			550,000件	575,000件	600,000点	本項目は、2026年1月2日時点のデータを使用
資料管理体制の強化	収蔵資料の事故による破損件数	0件	0件	発生させない	発生していない	0%			発生させない	発生させない	発生させない	虫害痕が確認された資料あり※
資料救済ネットワーク拠点機能の強化	県内外の資料ネットワークとの連携数	0件	0件	1件	1件	100%			2件	3件	4件	北総資料ネットとの連携

※収蔵資料の点検の結果、虫害痕が確認された資料については、速やかに対応済。（849件）

3 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組①に関しては、資料登録、大利根分館・大多喜城分館からの資料の移動等着実に進んでいる。引続き資料登録については進める</li> <li>・取組②に関しては、これまでに3回のトラップ調査を実施するとともに、収蔵資料の点検を実施し、虫損痕がみられる資料の把握に務めた。</li> <li>・取組③に関しては、北総資料ネットとの連携に加え、県内各施設の資料調査、香取神宮からの県指定文化財の寄託等着実に実施している</li> </ul>
--

4. 有識者による評価

--

5. 今後の活動方針

--

令和7年度 千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（基盤事業）（令和7年12月末日時点）

基盤事業の評価指標

1 判定

指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
	(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
資料の利用件数	199点	236件	208件	85件	41%			218件	228件	238件	
学術著作の発表数	107件	68件	112件	41件	37%			119件	124件	130件	
外部資金等を活用した研究件数	30件	24件	27件	13件	48%			30件	33件	36件	
講座・観察会、見学会の参加者数	2,085人	1,503人	1,750人	898人	51%			2,000人	2,250人	2,500人	
レファレンスサービス対応件数	3,669件	3,486件	3,800件	2,858件	75%			4,000件	4,200件	4,400件	

3 自己点検

- ・資料の利用件数については、目標値、前年度実績ともに下回る見込み。資料データベースの公開を引続き進め、利用を促す
- ・学術著作の発表数については、目標値、前年度実績ともに下回る見込み。研究員への啓発及び論文執筆の時間の確保が必要
- ・外部資金等を活用した研究件数については、申請件数は24件あったものの採択数が少なかった。
- ・講座・観察会、見学会の参加者数は、目標値、前年度実績共に下回る見込み。今年度実施予定されているイベント等についてSNS等を用いた周知を実施する
- ・レファレンスサービス対応件数については順調に進んでいる

4. 有識者による評価

5. 今後の活動方針